

2017年(H29年)
10月

No. 312

ひとはつうしん

(ホームページアドレス) <http://hitoha-fukushi.com>
(メールアドレス) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひとは福社会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL (0826) 46-2960 FAX (0826) 46-7230

- 向原では、早朝と日中の寒暖の差は日に日に大きくなり、秋の気配を濃くしていきます。柿の木などは今日掃いても次の日はすでに落ち葉が地面を覆っていますし、落ちたどんぐりにはすでに芽を出しているのさえあります。

- ひとはの在所する地域に明神クラブという地域住民でつくる団体があります。ひとはにとっても、ひとはまつりをはじめイベントのみならず、日常的にも大きな支えとなっている団体です。先日、その明神クラブの主催する田舎芝居が上演されました。ひとはにも出店の要請があり、ホムヤ長屋を中心にうどんの出店を行いました。そのメンバーの中には、長屋で生活している次郎水さんと鐘坂さんが加わり職員と子ども大活躍をしていました。私は隣の六風会の出店に加わっていましたが、やはり気になり横目でチリチリ。

- いやいや大したものですが、職員の支援もあるにはありましたが、うどんの準備にしても、接客にしても十分にお客さんに満足してもらったと思うと嬉しいです。無論トレードマークの赤ハレ中目とハンナクをかぶってのいごたちです。二人ともお酒を飲むのは嫌いではありません。いやどちからといえは笑が付きほど好きです。しかし、今回はそれどころではありません。自分たちの役割をしっかりと自覚しながらの活躍ぶりです。これからは色んなところでその活躍ぶりが見られるだろうと思うと、わくわくします。

- 「お二人さん、たのみますよ！」
そしてホームで生活している人たちも、産見客として陣取り会場の雰囲気をも盛り上げるのに一役買っていました。
(理事長 寺尾 文尚)



ひとは窯では、土曜日の開所日にアウト活動を行って、ある日のこと。Kさんと昼休憩中、いつものように外の景色を見ながら

Kさん「みどりがかきれいだねー」私「この景色を描いてみるのもいいんじゃない？」という会話の中で、絵を描いてみることになりました。

マジックとクレヨンを使い、画板に向かって一人で黙々と描いているKさんの後ろ姿を見てみると、集中力と達しさを感しました。午後からは下書きを終えみんなと一緒に部屋で色を塗って仕上げ。「久しぶりに絵を描いたな」と言うKさんの顔を見て、釣り好きの私も今度海に行って絵を描きたくなりました (ひとは窯 立野 兵治)

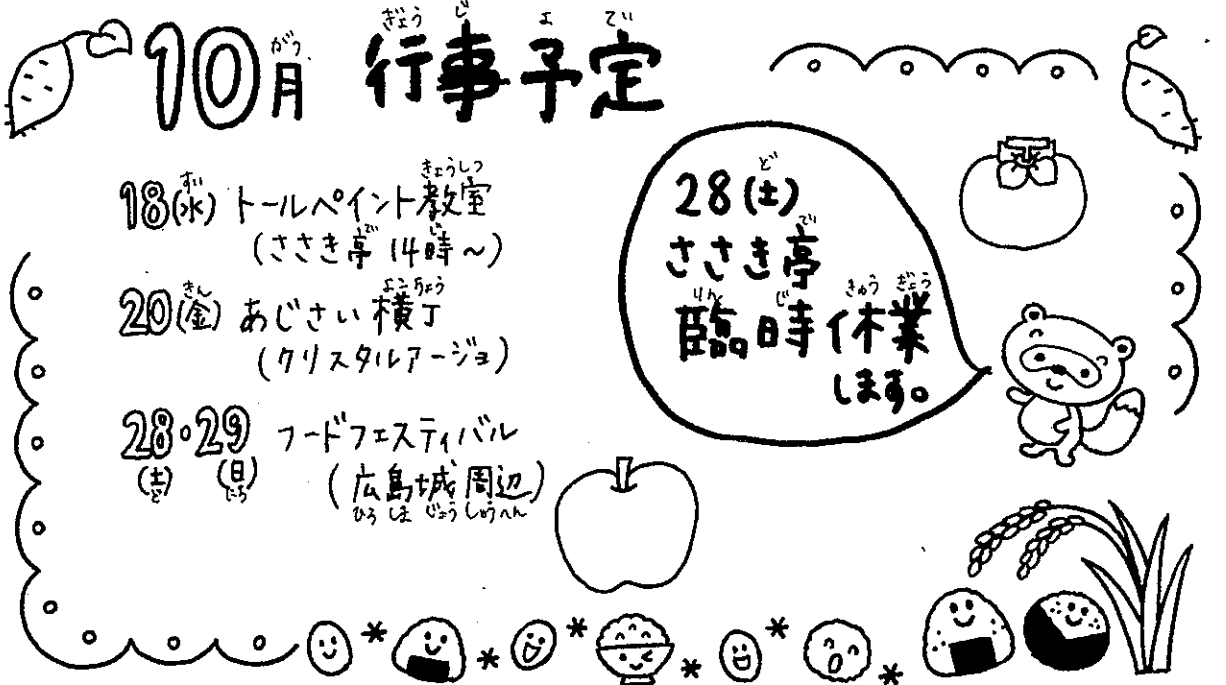
10月行事予定

18(水) トールペイント教室
(ささき亭 14時~)

20(金) あじさい横丁
(クリスタルアーシェ)

28・29 (土) (日) フードフェスティバル
(広島城周辺)

28(土) ささき亭 臨時休業
します。



時々、仕事の合間をぬって事務所に訪れ、棚から『ゆたらかい』を
 取り出し、パラパラめくった後、ある写真を指して「あ、あ」と訴え
 かけています。百数十ページの中から、お母さんを見つけたのです。
 現在、お母さんの体調不良のため、離れて暮らしている彼。言葉に
 できない寂しさを抱えながら、お母さんの存在を心の支えにしている
 かのようです。

ある時「お母さんの愛情に勝るものはないからねえ」とスタッフが
 言ったのを思い出しました。彼と一緒に願います。

「お母さん早く元気になってね。」

(事務 竹内宏美)

ひとはの

～10年ぶり、がんばってます～

Aさんは10年ぶりにあっぷへ...

あっぷのかつらとう、ごませんべいは、以前とは作り方が少し違っ
 ていることにとまどいがあったのではと。

しかし、今では新しいことをお願いすると「一度やってみて」。無理な
 ときは「今は無理」とはっきり伝えてくれる。できることは、ずっと
 続けて最後の片付けまできっちり。

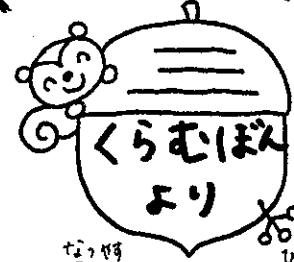
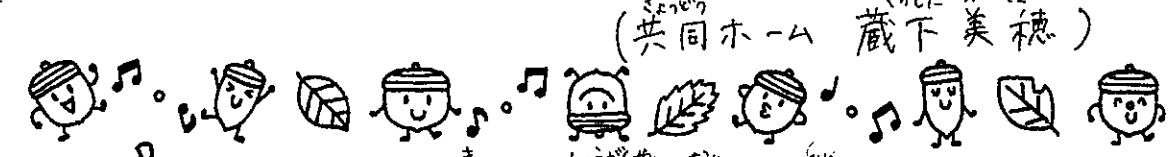
Aさん、これからよろしくネ。

(就労センターあっぷ 長岡逸子)



ひとはの Q&A

ある日の夕食後、スタッフがギターを弾きながら熱唱していました。
 皆何となく聴いているだけでしたが、Sさんが突然歌に合わせて
 手拍子を始めました。Sさんは普段、自分から身体を動かして表現する
 人ではないので、いきなりの手拍子にはびっくりでした。これはみんな
 一緒に楽しむしかないし一緒に手拍子を始めると、周りにいた仲間も
 つられて、踊ったり、手拍子したり、大盛り上がりでした。終わるとみんな
 大満足の笑顔。Sさん、楽しいひとときをありがとう。
 (共同ホーム 蔵下美穂)



くらむぼんに来ている小学生の中には、人とのコミュニケーションが
 苦手で課題を抱えている子どもが多く、ちょっとした言葉の取り
 違いでトラブルに発展してしまうことがあります。

夏休みのある日のこと。一日の活動を終え、4～5人でゲームをしていたグループ
 の中で、小学生が突然泣き始めました。すると、一緒に遊んでいた中学生の
 Mさんが「どうしたん？あつとこち来て。」と別室に連れて行きました。「何が嫌だったん？」
 「...」「言わんと分からんよ。」というやり取りが聞こえます。原因を聞き出すと、今度
 は相手の子連れてきて、Mさんが間に入って話を始めました。その結果無事に
 解決、仲直りし、元通り遊び始めました。

みんなはその流れを戸惑いから見守っていて、無事に解決に至ったことにも驚きでしたが、
 解決の仕方が私達スタッフの普段行っている取り組みと同じで、そのことにも驚きました。
 Mさんの成長がりに感じると同時に、子どもたちが普段いかに大人の動きを見て
 学んでいるかを改めて感じました。
 (くらむぼん 白井くみこ)